

令和6年8月22日

読谷村議会  
議長 伊波 篤 殿

読谷村議会議員  
與那覇沙姫 印

## 一般質問通告書

第539回読谷村議会定例会において次の事項の質問をしたいので、会議規則第61条第2項の規定により通告いたします。

質問要旨	答弁を求める者
<p>1 子育て世代の暮らしを整える支援について</p> <p>(1) 児童扶養手当の本来の目的は保護者の経済支援となっているが、2ヶ月に一回の支給では光熱費などの支払いが間に合わない場合もあるため、兵庫県明石市で行われている児童扶養手当の支給を分割し、毎月に分けて支払う事業を行えないか。事業の細かい内容は、対象者の要件を決め、申請式で行う。児童扶養手当の1ヶ月相当額を「貸付金」として、社会福祉協議会の生活支援員が家庭訪問を行い貸付金を渡し、本来の支給日に貸付金を返済してもらう方法となっているが、村でも実施できないか。村の見解は。</p> <p>(2) 短時間保育の選択制の進捗について、園長会議・村立保育所との意見交換を行ったか。</p> <p>(3) 保育士不足の解決策として打ち出した保育士処遇改善支援金・保育士就労促進支援金の実施年度と、どんな財源を活用しているのか。また成果と課題は。</p> <p>(4) 令和6年度予算における加速化プランの主な施策の中に保育士等の処遇改善があるが、本村の公定価格に変化はあるのか。</p>	
<p>2 公立幼稚園の子どもたちがのびのびと過ごせる環境改善について</p> <p>(1) 幼稚園の朝の受け入れや、午後の預かり保育の人手が足りない状況の改善策について</p> <p>(2) 人位配置不足により、園児が登園後待機を求められたり、本来起こることのない怪我が発生した環境の改善策は。</p> <p>(3) 特別支援教育支援員・預かり保育士・特別支援ヘルパー・預かり保育ヘルパー・特別支援短期ヘルパーはどのような予算で採用されているのか。</p>	

質 問 要 旨	答弁を求める者
<p>(4) 午前の教育時間の見直しを検討する必要があると考えるが村の見解は。</p> <p>(5) 教育委員会・子ども未来課は保育所と幼稚園への入所が併願できるという周知についてどのように行うのか。また、0歳～5歳が保育所であり、幼稚園は本来3・4・5歳児の3年教育を受ける機関ということを職員は認識しているか。</p>	
<p>3 住民と本村の子どもたちの生活実態調査を求める</p> <p>(1) 令和6年度の国民負担率の見通しは45.1%となり、時給は上がっても物価高騰や税金が上がり生活が非常に苦しい世帯が増えている。村民が求める村政運営と行政の考えに乖離があると感じており、対話以外にも村民の生活実態のデータが必要だという考えに行き着いた。子どもを含む住民の生活実態調査のアンケートを求めるが村の見解は。</p> <p>(2) 車上ねらいの事件が連続で発生していることや、今年度の広報よみたんの刑法犯認知件数を前年度と比較すると、2倍以上となっている。これは貧困の格差が広がっているからではないかと考えるが村の見解と対策について考えはあるのか。</p>	
<p>4 沖縄県が公立中学校の学生を対象とした、給食費の半額助成を行う事業を令和7年4月1日実施予定である。保護者の負担軽減が子どもたちの未来の投資につながることを目的とし、段階的に給食費の無償化を実現するための一歩と考える。本村は県との話し合いでどのような見解を示したのか伺う。</p>	
<p>5 公私連携幼保連携型認定こども園について</p> <p>(1) 公私連携幼保連携型認定こども園の募集要項によると、職員の継続雇用への配慮に説明会の開催を公私連携法人が行うとされているが、村の説明会はいつ行うのか。</p> <p>(2) 公私連携幼保連携型認定こども園運営条件に「原則、自園調理」とあるが、特別な理由があれば自園調理でなくてもいいという意味と捉えていいのか。もし、その意味だとしたらどんな理由であれば自園調理でなくてもよしとなるのか</p> <p>(3) 読谷村特定教育・保育施設等設置事業者選考委員会のメンバー構成はどのようなものになるのか。</p> <p>(4) 協定の締結が令和8年4月1日から令和13年3月31日となっているが、令和14年以降はどのようになるのか。</p>	

質 問 要 旨	答弁を求める者
<p>6 P F A S 汚染について</p> <p>(1) 石川浄水所だから安全でなく、沖縄県の P F A S の被害の重大さを伝えるために、本村でも血中濃度検査を行い実態の把握が必要である。その理由は、水道課の資料「読谷の水道」と沖縄県企業局の企業局 20 年史「ガロンの時代から」を基に、沖縄県企業局に戦後、私たちはどのように水を供給して生活に使っていたのか聞く中で、読谷村民は、1964 年～1993 年まで、比謝川・長田川・基地内の井戸を供給源としているコザ浄水場の水を供給していたことが分かったからである。今では P F A S 汚染は全国の問題と言ってもいいほど汚染が確認されている。本村も現在の供給源は石川浄水場だから安全であるとは言えない。水は命に関わる大きな問題で、沖縄県民の暮らしを守るためにも、全自治体で取り組む問題だと考えているが村長の見解は。</p> <p>(2) 村独自の血中濃度検査実施を検討した際、特別交付税の特殊財政需要額として国に要望できるか県に問い合わせ・協議を行ったことはあるか。</p>	